

重点管理項目

重点管理項目とは……

環境側面のうち特に環境に及ぼす影響が大きいものを重点管理項目といい、重点的に管理していくものこと

省資源

(用紙、インキ、刷版、現像液、水、その他主要資材)

省エネルギー

(電気使用量、運転時間の適正配分、LED照明化)

3Rの徹底・循環型社会への貢献

(リユース、リデュース、リサイクル、リサイクル率・産廃量)

業務の効率化

(業務改善による生産性向上、力量向上)

CSRの推進

(法令遵守、地域貢献、利害関係者のニーズと期待)

サイト	2017年 環境目標
横浜工場	全媒体損紙率1.90%以下 電気使用量2013年度比-1.52%以下 リサイクル率2016年以上 文書印刷・コピー数(複合機カウンター)値を2016年以下
埼玉工場	全媒体損紙率3.11%以下 電気使用量2013年度比-1.52%以下 リサイクル率2016年以上
八潮工場	全媒体損紙率1.91%以下 電気使用量2013年度比-1.52%以下 リサイクル率2016年以上
立川工場	全媒体損紙率2.05%以下 電気使用量2013年度比-1.52%以下 リサイクル率2016年以上
千葉工場	全媒体損紙率2.04%以下 電気使用量2013年度比-1.52%以下 リサイクル率2016年以上
茨城工場	日経全媒体損紙率4.52%以下、朝日全媒体損紙率2.09%以下 電気使用量2013年度比-1.52%以下 リサイクル率2016年以上
本社	コピー用紙の使用量2016年度以下

環境活動の取り組み

日経首都圏印刷の5工場は環境負荷を低減するモデル工場づくりに努めます。2009年7月7日に環境ISOの認証を取得しました。環境法令の遵守、環境負荷の抑制管理、環境目的・目標達成に向けた取り組みなど、環境マネジメントシステムに沿った適切な環境対応を全社員で進めています。

• 植物油インキの使用



主要資材である新聞印刷用インキを2000年に従来の石油系から植物油インキに切り替えました。環境負荷を軽減するためです。

• 廃液（現像液）削減装置の導入

製版関連の現像廃液は減圧蒸留（濃縮廃液処理）し、水と分離することで産業廃棄物を大幅に削減。これにより処理工場への運搬回数が減り、また重油焼却に伴うCO₂排出量が減っています。



• エネルギー使用量の削減



工場や事務所ではこまめな消灯、空調温度の適正な設定で電力削減を徹底しています。また電力設備の運用など極力見直しを進め、省電力消費が実現できるよう温暖化対策を進めていきます。

• OA用紙使用量の削減

本社、工場間では電子文書・データを活用。また配布資料の減量を目的にプロジェクターを使った会議も行っています。



• 購入品の環境負荷低減（グリーン対象品購入促進）



事務用品は環境配慮製品（グリーン商品）の購入に努めています。

• 一般廃棄物の分別と再資源化



工場と事務所にゴミ分別箱を設置して、廃棄時の分別を徹底しています。分別した資源ゴミは再生価値の高い種類から順に、より良質な再生処理を実現するよう努めています。

• 超々軽量新聞用紙を使用

新聞用紙で最も軽い $40\text{g}/\text{m}^2$ の超々軽量紙を 2000 年から 5 工場で使用しています。通常の $43\text{g}/\text{m}^2$ の超軽量紙に比べて 7% の新聞用紙を節約できます。新聞用紙の使用量を減らすことで CO_2 排出量の削減につなげます。

外部受注媒体では古紙配合率の高い用紙、グリーン購入法の新基準に適合した用紙を選定して使用しています。また、刷り出し・刷了時に出る白い紙（白損）をカットして宛名用紙として再利用しています。



• CTP 方式受信製版機



紙面データの受信製版はフィルムを使用せず、リサイクル可能なアルミ版にレーザー光で直接焼き付けるダイレクト製版（CTP）を導入。これによりフィルムが不要となりました。また使用済みのアルミ刷版もすべて回収しており、これらは建材などに再利用されています。

5 工場において現像液はロングライフ化に取り組み、廃液発生量の低減を図っています。一部の生産ラインでは、現像不要の CTP を採用し、アルカリ廃液そのものを排出しない製版システムを導入しました。また一部の刷版は厚みを薄くし、アルミ原材料の使用量削減も図りました。



• 地域活動への参加

埼玉工場は毎年秋、地域の清掃活動「クリーン鴻巣市民運動」に参加しています。工場周辺の公共場所を地域住民の皆さんと清掃することで、地域の環境美化活動に貢献しています。

